

(様式1・小学校用①)

# 令和7年度 学校評価報告

草加市立谷塚小学校

(令和8年2月2日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 徳育……やさしく (思いやりのある子) 体育……つよく (たくましく粘り強い子) 知育……かしこく (進んで学ぶ子)	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ・『あいさつ』自分から時と場に応じたあいさつをして、心と心を繋ぎ、温かい人間関係を構築する。 ・『どくしょ』言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を育成する。 ・『おそうじ』環境美化を通して、働くことの意義や尊さを体験させ、奉仕の精神と責任感を育成する。	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を育成する教育の充実を市委嘱の研究発表会にて発信することができた。 ○中学年からの教科担任制や夏休み学習会・放課後学習等により、あらゆるアプローチから指導の充実が図られた。 課題 ●諸学力・体力調査における学校の平均値の底上げ ●学級経営、積極的な生徒指導の共通理解のもと、より学習に向き合える環境の整備

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○目指す学校づくりが教職員の参画意識のもと、組織一体となり円滑に推進できた。 ○起案による提案資料の事前確認が確実に行われ、円滑な職員会議等の運営ができた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○学級経営に焦点を当てた研修を行い、個々の指導方法の共有が図られた。 ●児童理解や学習規律の共通理解から、学力向上に重点を置いた取組に深化を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○警察職員を招いた研修実施後、避難訓練を実施し、不審者への対応力を高めることができた。 ○盗撮防止のため、個人スマートフォンの使用規定等、迅速に危機管理マニュアルの改訂を行った。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報に係るファイルの収納場所を見直し、適正に管理ができた。 ○GIGA端末パソコンのテンキー外れ等の破損は、定期的な確認や予備機対応を行い、児童の学習に支障がでないようにしていく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学習予定表の全学級配付や給食だよりの紙での配付を再開し、子どもの主体性を大切に保護者への連絡方法を見直すことができた。 ○やつかつ子サポート会事務局と連携し持続可能な活動を模索することができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○目指す子ども像を共有し、発達段階に応じた各々の手立てで一貫した教育を推進した。 ●乗り入れ教員との打ち合わせの時間を確保し、乗り入れ授業の質をより高めていく必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寒暑が厳しい時期を避けて校外学習を行い、児童の体調不良もなく実施することができた。</li> <li>●日程の変更があり、調整が難しかった。次年度に向けた計画を綿密に行う。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確立した学習規律のもと、話し合い活動や主体的な学びが活発な授業を展開することができた。</li> <li>○児童アンケート結果をもとに、授業のわかりやすさや主体的な学びの充実に向けて改善を進めることができた。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業・研究協議を通して二分法による授業法の深化充実が図られた。</li> <li>●発言への切り返しや意図的な板書方法等、さらなる指導力の向上が必要である。</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTと連携し、外国語活動におけるコミュニケーション能力を育むことができた。</li> <li>●T1となる教員のさらなる指導力の向上が必要である。</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童会を中心にいじめ撲滅に関する取組をおこない、児童の意識の醸成が図られた。</li> <li>○話し合い活動を充実させ、活発に議論し、主体的な活動や約束等に結び付けることができた。</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめや調べ活動をICTの活用により充実させるとともに、ネットモラルの指導を充実させた。</li> <li>●外部人材の活用や教科横断的な内容等、指導計画の見直しを図っていく。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめを含めた問題行動に対して組織的に取り組み、未然防止、早期解決につながった。</li> <li>○不登校対応について組織として対応するとともに、SSW等による効果的な支援ができた。</li> </ul>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗り入れ授業や中学校進学へ向けた体験授業を生かしたキャリア教育の充実が図られた。</li> <li>●企業や外部から講師を迎え、職業体験や将来への思考を深めさせる機会を作る。</li> </ul>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援を要する児童の実態を把握し、諸機関と連携しながら指導、支援に努めることができた。</li> <li>●特別支援教育について保護者や他の児童が理解を深める機会を設ける必要がある。</li> </ul>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一度の貸出数を増やしたり担任により図書館の利用を促したりすることで、貸出数が向上した。</li> <li>○学校司書との連絡体制を密に行い、環境整備を整えることができた。</li> </ul>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○GIGA端末パソコンの持ち帰りにより自身の学びに合わせた活用が図れた。</li> <li>●GIGA端末の活用活性化に合わせ、故障・破損への迅速な対応が必要である。</li> </ul>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の夏季研修会を通して人権感覚を意識した授業・生徒指導を周知し、実践できた。</li> <li>○当事者意識をもって学習したことを日々の生活に反映できるよう、事後の見届けを丁寧に行う。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①あいさつ	・自分から時と場に応じたあいさつをして、心と心を繋ぎ、温かい人間関係を構築する。	B	○校内でのあいさつの活性化が図られ、児童アンケートでは1学期よりも向上が見られた。 ●保護者アンケートの結果が前年度を下回ったことから、家庭や地域とともに挨拶の習慣づくりを推進する必要がある。
	②どくしょ	・言葉を学び、感性を磨き表現力を高め、想像力を育成する。	A	○学校全体で年間平均50冊以上の目標を達成し、児童アンケートでも1学期より本に親しんでいることが明らかとなった。 ●ビブリオバトル等を継続し、読書の冊数だけでなく、読書の質の向上を図っていく。
	③そうじ	・環境美化を通して、働くことの意義や尊さを体験させ、奉仕の精神と責任感を育成する。	B	○週3回の朝清掃において黙働清掃により、児童アンケートでは集中して清掃に取り組んでいる児童が増加した。 ●朝清掃と1校時の開始時刻の徹底を両立させるため、次年度の日課表を見直した。

**5 総合評価 (学校関係者評価を含む)**

- ・学校経営方針の実現に向けて、教職員の自己評価シートの具体的目標と、児童による学級アンケートの内容をリンクさせ、自身の目標達成状況と児童の変容を同時に見とれるようにし、学校全体の教育力を向上させることができた。
- ・学級経営に焦点を当てた研修を行い、児童が主体的な学びができる土台として、安心できる教室、落ち着いた学習できる規律・環境、困ったことを相談できる児童との関係づくり等について、個々の指導方法の共有が図られた。
- ・学校運営協議会の協議を通して、日課表の見直しやメールシステム・口座引落金融機関の変更等、地域・保護者の意見を取り入れた改善・新たな取組をあらゆる形で実現することができた。

**6 次年度の改善策**

- ・重点目標・努力目標である「あいさつ・どくしょ・そうじ」いずれの項目も改善傾向が見られた。今後もあいさつを学力の向上、心の育ち、温かな人間関係の形成につながる取組として継続していく必要がある。特にあいさつについては、日々の継続的な指導に加え、学校全体での取組や家庭・地域と協働したあいさつの習慣づくりを進めていくことが求められている。
- ・研修により、学校全体の学級経営力は高まった。安定した学級経営という土台の上に指導力向上を積み重ね、さらなる学力と体力の向上を目指し、研修を進化させていく。
- ・児童の不登校傾向の児童が全体的に改善傾向であるが、個別の対応を今後も丁寧に行い、実態に合わせて学校生活への価値を見出させ、登校に結び付く支援を行っていく。